

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



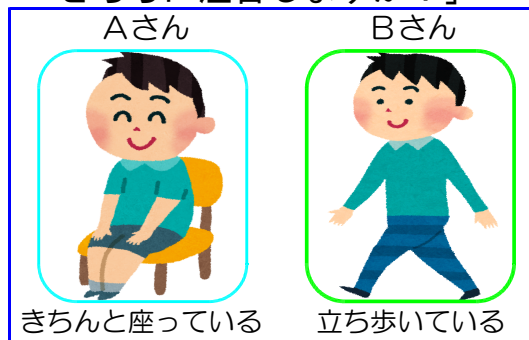
特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝



『能代市特別支援教育学級担任等研修会』より

能代市教育委員会主催「特別支援教育学級担任等研修会」の講話の一部を紹介します。

1 「どちらに注目しますか？」



・人はマイナス面に目が向くので、教室に入ったとき、立ち歩いているBさんに目が奪われると思います。離席しているBさんへの指導は大切ですが、それと同じくらい当たり前に座っているAさんに対して、「先生は見ているよ、あなたの存在を認めているよ」というメッセージを送り続けることも大切です。座っていて当たり前と考えずに、「ありがとう」「うれしい」という気持ちと、子どものよいところに注目する大きい目をもちましょう。

2 「学びで一番基礎となる力は？」



読む



話す



書く



聞く



推論する



計算する

・「聞く力」ではないかと思います。依頼を受けて知能検査を行っています。検査対象児に共通している課題が、「聞く力」と直結しているワーキングメモリの弱さです。ワーキングメモリは、様々な情報を保持し、同時に処理することであり、会話や読み書き、計算をするなどの学習を支える重要な能力です。ワーキングメモリ（聞く力、注意の集中も含む）を高める工夫としては、静けさは最大の支援といわれるように静かな環境をつくる、聴覚的短期記憶を補うために視覚情報を有効に活用する、子どもを引き付ける話し方を心掛ける、そして、教師が雑音にならないことが求められます。

3 「あなたが印象に残っている先生は？」

- ・ある小児科の先生は、いつも白衣のポケットに手を入れていたので、不思議に思った看護師が理由を尋ねました。「小さいお子さんを冷たい手で触ると、不安になり、ますます病院が嫌な場所になるからです」と答えました。
- ・あるお寿司屋さんに、70歳くらいの年配の母親と40歳くらいの娘が訪れました。母親が「今日のお寿司は食べやすいね」と何度も話すので、娘がカウンターを覗いたところ、大将は母親のお寿司だけに、食べやすいように「隠し包丁」を入れていました。
- ・学級・授業づくりでは、小児科医のように全ての子どもに必要な支援と、寿司屋の大将のように一人一人の子どもに合わせた配慮（えこひいき）が大切になります。あなたが印象に残っている先生はいますか？ もしいるとすれば、この二つのことをさりげなくできていた先生ではないでしょうか。



とれたて直送便



- 今年12月、文部科学省から小・中学校の通常の学級で支援を必要とする児童生徒の調査結果が発表される予定です。10年前の調査では6.5%でした。果たして今回は・・・。
- 『特別支援教育の扉』を参考にしています、「校内研修会で活用しています」などの声が寄せられています。今後も役立つ情報を紹介します。機能する校内支援体制を構築し、チームで特別支援教育の扉を開けて、子どもを元気いっぱい・笑顔いっぱいにしましょう。